





ふりがな 氏名	いはら ゆみ	都道府県	千葉県	
	井原 友美			
所属/肩書	八千代市立大和田南小学校 / 教諭			
私のESD活動	問題意識を高める授業づくり			
関心・活動のSDGs				

活動の概要

本校は社会科と生活科の研究校であり、ESDの視点を研究に取り入れている。社会科で重要なのは、子ども一人一人が自分なりに解決したい「問題」を発見し、それに向かって調べながら理由づけをしていき、「解決」していく過程である。この「問題解決学習」が問題意識と解決能力を育み、これからの社会を担う子ども達を育てていくと考える。

ESDの視点をもって、身近な事柄の教材化を図った。市内で一番大きい、自慢の一つである校庭に調整池が作られることになった。校庭が狭くなることで、休み時間の制限やマラソン大会の中止などが重なり、子ども達の中に「狭くなってしまうから嫌だ。」「どうして学校につくるの?」という不満が生まれた。そこで、子どもの素直な思いを、ESDの視点につなげ、授業を通して不満を取り除きたいと考えた。人々の願い、歴史的条件、地理的条件の資料を提示しながら「お金」に目を向けさせることで、社会科の「入口」とも言える学習問題を作った。学習問題は教師が与えるのではなく、子どもからの疑問から作ることで、継続した課題意識で学習に取り組むことができた。そして、調べたことの分析を十分にさせることで「大和田の町のためなら学校をぜひ使ってほしい!」「工事が始まってよかった。」というプラスの考えに変わった。目の前のことだけでなく、先のことを考えることができる子ども達を育てていけるような教育活動に取り組んでいる。

今後の活動の展望と周囲や社会への還元

同じ志をもつ、様々な立場で活躍されている方々と情報交換や意見交流を通して、学校教育の中に隠れているESDの取り組みや考え方について深く考え、学級、学年、学校そして社会に還元していきたい。本校は社会科と生活科の研究をしており、ESDの視点を取り入れようと、学んでいる最中である。ESDの新しい視点やアイデアを指導案に取り入れ、授業実践することで他の先生方にもよい刺激を与えることができる存在になりたい。そして、その取り組みが決して自己満足で終わることがないように、すべては目の前の子ども達のために挑戦していきたいと考える。

社会が革新している現在、昔と同じ教育をしては持続可能な開発のための教育はできない。少し視点を変え、新しいアイデアの集まる場所が今回のコンファレンスなので、ぜひ参加し学びたいです。